

現在、本校は『アクションプラン M'2025』に基づき学校経営を進めています。本校では 2013 年以來、教職員による自己評価と地域の有識者（地域の有力企業・金融機関の経営陣等）による外部評価の二重チェックを実施しており、次年度の改善に取り組んでいます。本年も 6 月 18 日、外部の有識者を招き活動報告を行い、以下のような評価をいただきましたのでご報告致します。

#### 〈アクションプラン評価委員会委員〉

- |       |        |                            |
|-------|--------|----------------------------|
| ・委員長  | 志賀 弘典  | 元日立セメント(株)専務取締役            |
| ・副委員長 | 左子 幸治  | (株)JWAY 代表取締役会長            |
| ・委員   | 奈須野 裕司 | 元(株)日立リアルエステートパートナーズ 常務取締役 |
| ・委員   | 大山 敬次  | 元常陽コンピュータサービス(株)代表取締役      |
| ・委員   | 岩間 廣道  | 日立市宮田学区コミュニティ推進會会長         |
| ・委員   | 宇佐美 吉郎 | 日立市連合民生委員児童委員協議會会長         |
| ・委員   | 小藺江 五良 | 小藺江商事社長                    |
| ・委員   | 関根 由喜  | 前明秀学園日立高等学校 PTA 副会長        |
| ・委員   | 富永 淳子  | 日立市広報戦略課長                  |
| ・委員   | 船木 直登  | JX 金属(株)日立事業所総務部総務課主任      |

## 【全日制課程】

2021年度評価表		予測・目標	現状	平均	
経営目標	生徒数	1年 350(域外70)名以上 総生徒数 1,030名	1年 284(域外80)名 総生徒数941名	3.3	
	1年生生徒数	350名	284名	3.0	
	1年ST・Sクラス数	ST:2 S:1または2	ST:1 S:1 62名(34・28名)	3.3	
	1年Aクラス数	A:6または7	A:6 222名	4.0	
	奨学生	1年学業奨学生 SA以上70名(入学生の20%以内)	SA以上43名(15%)	3.5	
	1年スポーツ奨学生	スポーツ I 種 25名(入学生の8%以内)	I 種 22名(8%)	4.2	
施設	校内WiFi環境を活用したGigaスクール構想に対応、本校体育館耐震化工事並びに施設整備(冷暖房・トイレ改修等)、白梅会館浴室整備、各理科室備品の整備推進	本校体育館耐震化工事並びに施設整備(冷暖房・トイレ改修等)、白梅会館浴室整備	3.9		
教育目標	模試(1年)	ST 60以上 S3以上 10%以上 A2以上 50%以上	平均52.6 60以上5名(11%)、S3以上0名、A2:3名(7%)、A3:5名(11%)	3.4	
		進研1月模試偏差値	S 54以上 A3以上 10%以上 B2以上 50%以上	平均41.4 54以上:1名(3%)、A2:1名(3%)、B2:5名、B2以上:21%	2.9
		進路マップ	A選抜 45~50 A2 5名以上 B2 50%以上 B 2科目以上	平均48.9 A2:0名、A3:2名、B1:7名、B2:20名、B2以上:76%、B2科目以上:30名(79%)	3.9
		共通テスト	A 平均C3以上 C2 30名 C以上 50%	第2回 平均37.4(D2)、C1:1名、C2:2名、C3:3名、C以上:6名(4%)	2.9
	共通テスト	ST	平均得点率70%以上	49.2%(5教科70%以上1人、60%台6人、50%台18人、40%台16人、30%台9人)	2.6
	S	平均得点率55%以上	37.5%(5教科50%台5人、40%台12人、30%台18人、20%台9人)	2.4	
	A	A選 全員受験 A 10名以上	A選 18名受験(45%)、平均得点率43.9%(5教科50%台3人、40%台2人、30%台1人、20%台1人) A 2名受験	3.1	
	進路	ST 難関国公立、早慶、GMARCH	筑波大1名、茨城大10名、福島大4名、公立大15名、早稲田1名、明治2名、青学2名、立教2名、中央8名、法政5名合格	4.0	
	S 茨城大、中堅私大(日東駒専、大東亜帝国)	茨城大1名、公立大2名、日大4名、東洋1名、駒澤2名、専修1名、大東文化2名、東海1名、帝京2名、国土館4名合格	3.7		
	A選抜 GMARCH、中堅国公立大、中堅私大	立教1名、茨城大1名、日大1名、東洋1名、専修1名、大東文化1名、国土館1名	3.8		
A 私大、専門学校、就職	大学(118名・62%)、短大(5名・3%)、専門学校(43名・23%)、就職(13名・7%)、在家(10名・5%)	4.1			
国際交流	ST・S 修学旅行	語学研修型海外修学旅行	新型コロナウイルスの流行により中止		
	A 修学旅行	体験型海外修学旅行			
	国際交流	オーストラリア短期語学留学(15名)、ハワイ交換留学(1名)、バーンサイド高校交換留学(3名)、リシクル高校交換留学(5名)			
	インターハイ	団体で3部以上出場			準優勝(男子サッカー・男女卓球)、準決勝進出(男子ソフトテニス、女子バスケ、女子バレー、女子ソフトボール)
特別活動	甲子園・国立	甲子園・国立出場	野球部:2度目の選抜高校野球大会出場 サッカー部:茨城県大会準優勝、	4.6	
	吹奏楽	東関東吹奏楽コンクールA部門出場	東関東吹奏楽コンクールA部門出場(銅賞)	4.8	
	地域貢献	吹奏楽部・ダンス部の地域貢献活動、日本を美しくする会の理念を推進	吹奏楽部「ひたちのヒカリ〜花咲くミライ〜」に参加し「クリスマスコンサート」を実施(12.25) ダンス部「2021場間フェスティバル 前座」(5.8)、「ひたちなか祭り2021 Live」(8.21)、「DREAM DANCE LIVE STADIUM 2021」(10.31、12.25)、「ウィンターダンスステージ2021」(11.23)、「日立市市長杯ラジオ体操コンテスト」(12.18)、「SEAMARK SQUARE 2周年特別ステージショー」(3.20)	4.9	
	部・同好会	文化部入部率30%以上	文化部98名・9.7% 前年度86名・8.5%	3.1	
中退	全	25名以下	25名(2.5%) 昨年度24名(2.4%)	4.1	
	1年 ST・S中退数	ST 0名 S 2名以下	ST 1名 S 2名 昨年度ST 1名 S 3名	3.6	
	1年 A中退数	A 7名以下	A 9名 昨年度A 8名	3.3	
教職員	シラバス	シラバスの改善、教科会の実施(月10回以上、年10回以上)	年度当初にシラバス作成、定期考査前後などに各教科で実施(回数は未把握)	3.5	
	研修	校内研修の充実、初任者私学関東地区研修(2人)、日本私学研修所で中堅1人	有力塾長講演会(茨進グループ教育本部長小林克彦氏「私立高校教員として知っておくべきこと」 オンラインで実施 9.22)、新教務システム研修(10.14)、木村達也氏講演会「東大合格のために取り組むこと」(11.2) 初任者私学関東地区研修・日本私学研修所での中堅研修はコロナ禍で中止	4.0	
合 計 値				102.4	
総 合 評 価				3.7	

【評価の目安】5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

## 【通信制課程】

2021年度評価表		予測・目標	現状（括弧内%は目標達成率）	平均	
生徒数	年度末在籍生徒数 （桜徳高等学園除く）	765名	桜徳除く833名（108.9%）が年度末在籍生徒数。桜徳高等学園7名・9月卒業6名・中途転学3名・中途退学1名・中途除籍1名を含めると年度内総在籍生徒数は851名。	4.7	
	日立C在籍生徒数	155名	190名（122.6%）		
	水戸C在籍生徒数	260名	255名（98.1%）		
	下館C在籍生徒数	105名	89名（84.8%）		
	宇都宮C在籍生徒数	245名	299名（122.0%）		
	その他				
経営目標	アクションプラン	M'2025初年度の検証および改善策提示	水戸・宇都宮キャンパスのラーニングコモンス化の一環として対話型ホワイトボード（MAX HUB）・生徒用移動式テーブル付チェアを準備。また、2022年度からの教職員フリーアドレス化促進のため、全教職員にノートPC（サーフェス）貸与。キャンパスのWi-Fi強化および通信サーバー整備は半導体不足の影響で整備未完了。	4.2	
	栃木県における生徒拡充	関係各位との連携強化	宇都宮市立道路指導主事研究会とのパイプ強化により2022年度の新入生が増加（82名/前年度比146.4%）。また、適応指導教室との連携にも進捗が見られ、教室単位でのキャンパス見学（相談会）も増加。	4.8	
	教員対象説明会	中高教員対象説明会の拡充	コロナ禍の影響もあり、参加者は水戸会場5名（前年度比100%）、宇都宮会場22名（前年度比95.7%）と伸び悩んだ。中高現場への周知が行き届かないことが課題として挙げられる。	3.3	
	スクーリング施設拡充	各キャンパスの面接指導等実施施設認可	コロナ禍における高教キャンパスへの長時間バス移動に対する生徒・保護者の不安から、実験・実習等を伴う授業以外における各キャンパスでの面接指導およびテスト実施を模索。	4.0	
	ホームページ	資料請求数向上（前年度比120%）	2020年度はコロナ禍の影響で前期の資料請求が激減し481件（前年度比98.4%）と伸び悩んだものの、2021年度はホームページのリニューアルもあり622件（前年度比129.3%）の実績。また、「固定観念や偏見にとらわれぬ大人になるために」というメッセージを強く打ち出したことで中学生（Z世代）から好評を得た。	4.7	
	教職員ブログ	週1回以上の更新（教職員リレー形式）	「学校での様子を知りたい」といった保護者の声に応えるとともに、本校在籍に限らず不登校等に悩む生徒・保護者に有益な情報発信を目的として実施。更新頻度の低さから年間アクセス数は17,000件（前年度比141.7%）と伸び悩んだ。2022年度からはZ世代の特徴も踏まえ、各種SNSを使い分けることで、より良い情報発信に取り組む予定。	4.0	
	見学者入学率	80%	個別では目標達成した教員がいる（2名/16.7%）ものの、キャンパス平均ではどのキャンパスも目標未達の状況。日立73.3%（前年度73.3%）・水戸65.3%（前年度59.4%）・下館62.6%（前年度66.7%）・宇都宮76.5%（前年度66.7%）	3.2	
	その他				
カリキュラム	教育課程	新教育課程編成に係る教員研修	株式会社FCEエデュケーションのオンラインコンテンツである『Find!アクティブラーナー』を用いた教職員研修等を実施。	3.8	
	学校設定科目関連	学校設定科目化に向けた本校独自のゼミ学習の拡充	担当者の目的意識が不明瞭なケースが見られ、出席率にも格差が生じた。そのため、学校設定科目化は後送りとし、2022年度は実施目的を明確に示したシラバスの作成および内容精査に努めることとした。	3.0	
	高大連携	高大連携の推進	常盤大学（目まゆみ教授）・茨城キリスト教大学（米岡英治准教授）による公開授業を実施。いずれも30数名の参加に留まったことを踏まえ、内容精査および周知・申込方法等の再検討が必須である。	3.3	
	校務分掌	教育目標達成のための有機的校務分掌再編	コロナ禍および有事における生徒の安全確保のための保健安全部を新設。ただし、全体としては分掌ごとの単独での進捗に留まった感が強く、2022年度からはトップダウンモクラシーの概念を軸としたトップダウン・ボトムアップ其々のメリットを活かした校務分掌再編整備を実施。	3.5	
	ICTツール活用	Classi活用による生徒・保護者とのコミュニケーション促進	満足度調査や各種アンケートを生徒・保護者に随時配信。結果をPDCAサイクルにフィードバックすることで適宜修正を図った。また、従来の文書発送をClassiによる配信に変更したことで、ペーパーレス化を促進した。ただし、Classiでの各種アンケートの回答率は5割程度と低く改善策を模索中である。	3.5	
	ICTツール活用	Zoom活用によるオンライン会議等の推進	臨時職員会議やスマイルサポーター（生徒）の会議等にてZoomを積極的に活用。とくにサポーターは各キャンパス間の意思疎通が図られ、行事の企画運営面での効率化が図られた。	4.4	
	ICTツール活用	すららネット活用（50名）	2020年度は39名の希望生徒が活用。2021年度は75名（前年度比192.3%）の生徒が活用したが、「自宅ではやる気がでない」等の声もあり「すらら学習日」を設定。登校して利用することで不明な点を気軽に教員に質問したり、意欲を継続できる仕組みを取り入れた。	4.1	
	ICTツール活用	サポーター（100名）および活動内容の拡充	サポーター120名（前年度比123.7%）と活動生徒も増加。ただし、縦割り組織化によるリーダー格の疲弊が反省点として挙げられるため、2022年度は組織の再構築および研修制度の見直しを検討中。	4.4	
	ICTツール活用	スマイルサポーター活動	前年度踏襲のスポーツ大会（めしゅりんピック2021）・予餞会のほか、新入生歓迎セレモニー等をサポーターが企画運営。企画書の作成からZoomによる定期的オンライン会議の実施など、「主体性・協働性の育成」に大きな進捗が見られた。	4.8	
	ICTツール活用	ボランティア活動	大子町観光商工課の依頼による映画撮影エキストラのボランティアに22名が参加。その他、水戸市南町商店街振興組合主催の花壇の清掃・花植えのボランティア（32名）やキャンパス周辺清掃活動（6日間）に多くの生徒が参加した。	4.3	
教育目標	特別活動	HR活動	情報モラル教育・消費者教育・心の教育および人権教育・がん教育・栄養教育・環境教育を目的として実施。	4.0	
	特別活動	部活動	女子バスケ部・柔道部・陸上部の3部が全国大会出場権を獲得したものの、コロナ禍における生徒の安全管理の観点から本校は全国大会不参加とした。また宇都宮・水戸に次いで下館キャンパスにもダンス部が発足し、予餞会や新入生歓迎セレモニー等で公演披露したほか、校外ではダンスフェス等で全日制ダンス部と積極的に共演した。	4.4	
	特別活動	生徒生活体験発表	校内予選7名以上参加	コロナ禍の様々な事情（県大会は文書開催）を受け、従来の「生活体験」の意味合いよりも「前向きなプレゼン」という方向性にシフトしてカルチャー&スポーツ大会で実施。ただし、周知等の遅れもあり参加者は1名であった。2012年度から高文連にも加盟し、今後は高文連主催のスピーチコンテスト等への出場も検討中。	3.0
	進路	難関大合格	国立大・難関私大への合格1名以上	学習院大学に1名合格。3年連続現役国立大合格者輩出には及ばなかった。	3.7
	進路	進路ガイダンス	キャリアガイダンスにおける外部企業との連携	F Mはるるん・関影商事株式会社の2社によるキャリア教育を実施。参加生徒は各48名・12名と思うようだけでなく、協力いただく企業の選定および実施時期等に課題が残った。	3.2
	進路	全日制との連携	人的・物的リソースの有効活用	全日制ST教員の協力によるオンライン個別指導にも取り組み、学習院大学への合格者を輩出。その他、外国人教員による外国語でのスクーリングや物的リソースの共有として模擬試験の過去同等のデータ共有などにも取り組んだ。	4.2
	進路	進路決定率	70%	79.5%（前年度比103.7%）	4.8
	卒業率	卒業率	卒業率100%	卒業率98.0%（前年度101.9%）。2020年度より卒業率が向上したものの、コロナ禍におけるスクーリング会場へのバス移動に不安を抱く生徒・保護者への心理的ケア等はまだ改善の余地あり。	4.2
その他	コロナ対策	安全性の担保	2020年度よる各キャンパスにAEDおよびサーマルカメラ（AI顔認証機能・ウォークスルー計測可能）を設置。コロナ対策に限らず有事への対応としてキャンパスの生徒入退室を紙ベースで記録・管理しているが、スピードと正確性の面からiPadを利用したクラウドベースの入退室管理を準備中。ただし、コロナ禍における保護者・教員間の連絡・対応策協議等についてはスピードが求められるため、改善策を検討中。	4.2	
合 計 値				107.7	
総 合 評 価				4.0	

【評価の目安】 5：充分達成できている 4：達成できている 3：概ね達成できている 2：不十分である 1：達成できていない